

平成21年 3月12日  
航空局管制保安部運用課

## 「航空情報業務の自動化及び電子地形・障害物データに関するセミナー/ワークショップ」 及び「第4回航空情報業務実施タスクフォース会議」の概要について

航空の安全性向上等のため、世界的に求められている航空情報業務の高度化に貢献するため、標記会議を開催しましたので、概要をお知らせします。

### 1. 日時、場所

日時：平成21年2月23日(月)～24(火) セミナー/ワークショップ  
平成21年2月25日(水)～27(金) タスクフォース会議  
場所：ANAクラウンプラザホテル成田(千葉県成田市)

### 2. 参加者

- (1) セミナー/ワークショップ：合計153名  
【外国】オーストラリア、バングラデッシュ、中国、香港、フィジー、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、シンガポール、スリランカ、タイ、米国、ベトナム及び国際民間航空機関(ICA0)等から計35名参加  
【日本】航空局、防衛省、空港会社、航空会社、測量会社等から計118名参加
- (2) タスクフォース会議：合計50名  
【外国】上記に加えてインドから計37名参加  
【日本】航空局から計13名参加

### 3. 議事概要

- (1) セミナー/ワークショップ  
航空情報業務の自動化と地形・障害物データの電子化を促進するため、世界の取組状況が紹介され、意見交換が行われ、参加者間の共通認識が深められました。  
電子地形・障害物データについては次のとおりです。  
・ユーロコントロール(欧州航空管制機関)及び米国がデータ収集の意義とともにその具体的方法、課題、解決案について発表し、意見交換がおこなわれました。  
・中国、オーストラリア、香港及び我が国から、取組み状況が報告され、いくつかの課題が指摘されました。  
・データ収集について、測量会社から新技術が紹介されました。  
航空情報業務の自動化については、進んでいる我が国の現状を報告したところ、多大の経費が必要との指摘もありました。
- (2) タスクフォース会議  
従来の航空情報業務(AIS)を航空情報管理(AIM)に向かって高度化していくため、世界の取組状況が次のとおり報告・検討され、アジア太平洋地域での諸課題の解決を目指して作業を継続することとなりました。  
平成20年12月にICA0本部が開催した「第1回航空情報業務検討グループ会議(AIS-AIM Study Group)」で検討された取組みと課題(工程表の作成、航空情報の電子化、電子データ交換、品質管理等)について我が国から報告し、参加者間で共通の認識を深めました。  
我が国が平成20年8月に提供を開始した、電子図面を用いた航空情報であるグラフィック・ノータムのデモンストレーションを行い、高い評価を得ました。  
航空情報電子データベースについて、ユーロコントロールと日本のデータ交換の取組み、フィリピンとオーストラリアによるデータベース整備計画、アジア太平洋地域での共同データベースの提案について説明と意見交換がおこなわれました。  
韓国からアジア太平洋地域内の時差による航空情報の発効時刻への影響調査結果が報告され、更に検討することとなりました。  
引き続き航空情報業務の高度化を目指して作業を継続することとなりました。

問い合わせ先：  
国土交通省航空局管制保安部運用課  
運用調整官 小森(内線51-303)  
専門官 三口(内線51-335)  
代表 03-5253-8111  
直通 03-5253-8751